

## 「子どもが共に生きる世界」をケアする

熊谷 美郷

### 要約

本研究では、子どもたちが安心して過ごすことのできる学級づくりのために、担任と子ども、子ども同士の関係性に着目し、通常の学級担任のどのようなかかわりや姿勢が重要となるかを明らかにすることを目的としている。まず、学級経営に長けた3名の教諭を対象に、かかわり観察とインタビューを行った。そこから抽出された教師のかかわりを踏まえて、若手教員と共に実践と、月に1回の事例検討会を行った。その結果、若手教員の子どもに対するかかわりや姿勢が変容し、学級の子どもの一人一人の気持ちや様子の変容、子ども同士の関係の変容が見られた。

**キーワード：**通常の学級、教師のかかわり、学級づくり、インクルーシブ教育

### 1. 研究の背景と目的

通常の学級に在籍する特別な支援を要する子どもの割合は国、島根県ともに増加しており(文部科学省, 2022; 島根県教育委員会, 2024)、学校で学ぶ子どもの様相の多様化、複雑化を踏まえると、通常の学級での特別支援教育の視点を取り入れた指導・支援の充実が喫緊の課題である。

これまで障がいのある子どもという「個」に焦点を当てた支援が中心であったが、インクルーシブ教育システムの構築が推進される今日、「個」と「周囲他者」との関係を含む学級という「集団」の在り様を捉える必要がある。

牧野(2025)は、「『個』は『個』だけで育つのではなく、『個』は周囲との関係の中で育つ」とし、「暮らしにくさを子どもの能力の問題とするのではなく、子どもの今を受け止め、子どもにかかわる人たちとの中で繰り広げられる暮らしそのものを豊かにすることを考える必要がある」と述べている。このことは、子どもの能力の伸長を図る担任の積極的な指導だけでなく、子ども同士の関係など環境を調整する教師のかかわりが、誰もが安心して過ごすことのできる学級づくりにつながることを示唆している。また、安心できる学級とは、どの子にとっても「居

場所」が感じられる空間であり、誰もが自己肯定感をもち、互いに認め合える集団であるとするならば、そのための重要な鍵を握るのは、やはり担任のかかわりであると思えた。こうした関係性を基盤とした学級づくりは、鯨岡(2011)が述べる「養護の働き」と「教育の働き」にも通じ、双方の働きを往還させることで、子どもの心の育ちを支え、育てることができると考える。

一方で、インクルーシブ教育の視点を取り入れた学級経営研究は、教師の観察や聞き取りにとどまり、そのかかわりが子どもの変容にどう影響するかを長期的に検討したものは少ない。さらに、抽出された教師のかかわりを他の教師が実践し、その効果を検証した研究も乏しい。

そこで本研究では、誰もが安心して過ごせる学級づくりの実現に向け、教師に求められるかかわりや姿勢を調査及び実践を通して明らかにし、教師と子どもの双方に生じる変容を検討することを目的とする。

### 2. 通常の学級担任のかかわり調査

通常の学級担任を対象に、かかわり観察および面接を実施し、教師として大切にしたいかかわりや姿勢を検討した。調査は、M市N小学校の学級担任を対象とし、その教師には文書と口

頭で研究の目的, 方法, 結果の公表, 個人情報の厳守等を説明し, 許可を得た。

## 2.1 方法

### 2.1.1 かかわり観察

①1年生から6年生までの各学年の学級担任6名を対象に「かかわり観察Ⅰ」を行った(202X年7月から10月)。各学級ともに, 筆者が授業(100単位時間), SHR(8時間), 休み時間等(10時間)において参与観察を行った。また, 「エピソード記述」による記録を行い, 教師のかかわりや姿勢についての分析と検討を行った。

「エピソード記述」とは, 「人と人の接面で何が起こっているか」という素朴な問いに対して, 当事者の立場に立って, 目に見えない心の動きをも含めてそこで起こっていることを明らかにするもの(鯨岡, 2013)である。したがって, この方法を用いることで, 子どもの心の動きに着目した担任教師の実践やかかわりのあり方を明らかにすることができる考えた。

②「かかわり観察Ⅰ」の後, N小学校の管理職, 大学教員, 筆者の3名で, 6名の教諭のかかわりに基づいて, よりよい学級づくりについて協議し, さらに子どもへのかかわりを詳細に掴むため, 調査対象を6名の中からO教諭(3年担任), P教諭(4年担任), Q教諭(6年担任)の3名に絞り, 参与観察を継続して行った(期間: 202X年11月から202X+1年3月, 時間: 授業(170単位時間), SHR(13時間), 休み時間等(18時間))。また, 「エピソード記述」による記録も継続した。

### 2.1.2 半構造化面接(インタビュー調査)

202X+1年1月から202X+1年3月の期間に, かかわり観察Ⅱの対象教員3名を対象として面接を行った。面接の時間は1人につき1時間から1時間半であり, 面接の主な内容は, ①観察で見られたかかわりの意図, ②1学期からの子どもたちの様子の変化, ③子どもと関わる中で大切にしていることであった。

面接は逐語化し, 類似する内容で分類しカテ

ゴリー名をつけた【カテゴリー1】。さらに類似性において分類し, 【カテゴリー2】, 【カテゴリー3】としていった。

## 2.2 結果と考察

### 2.2.1 かかわり観察および半構造化面接

ここでは, 3名の教諭に対する面接の分析結果と, 面接実施前から行っていた「かかわり観察Ⅱ」の関連場面を結び付け, 通常の学級担任の子どもへの大切なかかわりについて考察する。紙幅の都合上, 主にP教諭について記載する。

P教諭に対する面談の分析の結果, 「ある」を尊重する」と「ある」を拡げる」の2つの教師の姿勢にまとめることができた(図1)。

「ある」を尊重する」とは, 子どもの存在や, 気持ち, 言動, 考えなど, 子どもが今「ある」ものを認めて, 大切にすることである。子どもの目線に立って気持ちを理解しようとし, 子

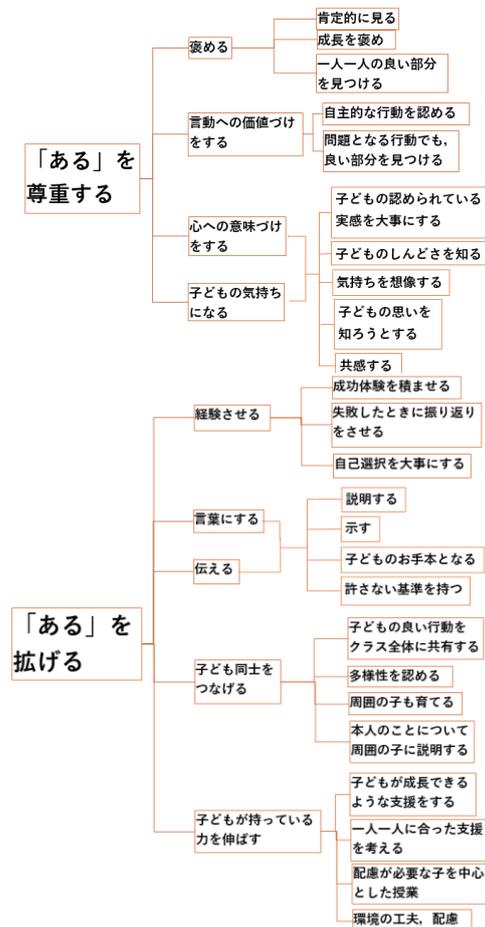


図1 P教諭のかかわり

もの行動の背景にある思いや意図，子どもの変化を肯定的に眼差す姿勢のことを言う。また、「“ある”を拡げる」とは，子どもにある力を伸ばし，子どもの成長を促す教師のかかわりである。子ども一人一人に適った支援や配慮を考えるとともに，子どもが互いに理解しにくい言動があれば丁寧に説明して，子ども同士のつながりを広げていくなどのかかわりのことを言う。

同様に，O教諭，Q教諭から導かれた【カテゴリー3】は，それぞれ「認める」と「教える」，「支える」と「導く」であった。

このP教諭のかかわりや姿勢を，「かかわり観察II」で記録した「エピソード記述」と結び付け考察すると，次のようになる。ここでは「エピソード記述」の概要を示す。

〈エピソード〉 この日の道徳の時間に，授業内容に関連する動画を見ることになった。動画を見る前にP教諭はみんなに向かって，「(電子黒板が)見えやすいところに動いてもいいです」と伝えた。すると，だいすけさん(仮名)は，「見えない」と言って電子黒板の目の前に椅子を持ってきて，P教諭やクラスメイトに気にしてほしいように，かまってみようとして周りを確認しながら座った。しかし，いつの間にか，だいすけさんはもともといた場所へ戻っており，動画が始まるのを隣に座っている友だちとワクワクしながら一緒に待っていた。すると動画を再生する前にP教諭は全体に向けて，「さっき見えやすいところに動いてもいいって言ったでしょ。」と話を始めた。そして，「だいすけさん，やる気があって前に座ってたんだけど，そこにいたらみんなが見えないと思って戻ったよね。」「やる気があるのも大事だし，みんなのことを考えるのも大事だよ」と伝えた。

だいすけさんはP教諭の言葉を聞き，照れたように周囲のクラスメイトを見渡した。すると，周囲の子も「すごいじゃん」と言うようにだいすけさんを笑顔で見ていた。その周囲の子がだいすけさんを見るまなざしは，だいすけさんが褒められたことを，まるで自分が褒められたように感じ，自分のことのように喜んでいるように思えた。

このエピソードの「だいすけさん，やる気があって前に座ってたんだけど，みんなが見えなくなるとして戻ったよね」と伝えたP教諭の言葉は，「みんなに気にしてほしい」というだいすけさんの気持ちを感じ取り，だいすけさんの行動を肯定的に捉える「“ある”を尊重する」かかわりである。そして，クラス全体に「やる気があるのも大事だし，みんなのことを考えているのも大事だよ」と伝えたのは，だいすけさんの認められている実感を大事にするという「“あ

る”を拡げる」かかわりであると言える。

このことからP教諭は，「“ある”を尊重する」と「“ある”を拡げる」の両方のかかわりを一時に行っていた。だいすけさんだけでなく，周囲の子どもたちとだいすけさんが気持ちを共有し，自分の事のように嬉しそうになっていたのは，そのようなP教諭の両方のかかわりがあったからであると考ええる。

P教諭同様に，O教諭，Q教諭のかかわりを考察し，かかわりをまとめると，「“ある”を尊重する」と「“ある”を拡げる」のように，どちらか一方に偏るのではなく，子どもの状態や場面に応じて両方を柔軟に行っていることがうかがえた。子どもが示す言動やその背景にある気持ちを受け止め尊重し，言葉にするなど，子どもの気持ちに目を向けるかかわりと，その上で教師としての思いや考えを子どもの状態に応じて伝えるかかわりの両方が必要である。

無藤(2002)は，子どもの訴えを評価せずにまずは受け止めるという「受容」が重要であり，受け止めた上での助言こそが子どもの心に届くと述べている。また，鯨岡(2011)は，「養護の働き」と「教育の働き」の双方の働きが子どもの有能感や自尊感を導き，子どもの原動力が生まれると指摘しているが，3名の教諭のかかわりはいずれも，この2つの「働き」と通底しており，その相反するかかわりを，子どもの状況に応じて柔軟に行っていた。その結果，子どもの不安や心配といった負の感情は，安心や自信へと変容すると考えられた。こうしたかかわりの積み重ねは，担任と子どもの関係を深化させ，子ども同士の関係を良好にし，学級全体の安心感や相互理解の向上につながると考えられた。

### 3. 通常の学級での実践

「2. かかわり調査」から明らかになった教師のかかわりをもとに，通常の学級で実践を行い，そのかかわりによって子どもの心や姿がどのように変容するのかを示すとともに，教師と

して大切にしたいかかわりや意識を再検討した。

### 3.1 方法

対象学級は第4学年の1クラス(35名)であり、新規採用から3年目になるR教諭と共に実践を行った(期間:202X+1年4月から同年11月まで)。まず4月から5月の間に、202X年度の調査で明らかになった教師として大切にしたいかかわりをR教諭と共有した。実践中は筆者も学級に入り、子どもたちと生活を共にした。実践の記録は、R教諭や筆者と子ども、子ども同士のかかわりについて、筆者が「エピソード記述」にまとめた。作成した「エピソード記述」を用いて、月に1回の事例検討会を実践期間中に5回実施した。検討会には、R教諭と特別支援教育に精通する大学教員、筆者が参加した。

鯨岡(2005)は、「エピソード記述」として積み重ねることにかかわり手の受け止め方やかわり方の変化も読み取れると示している。そこで、R教諭との実践に「エピソード記述」を用いた事例検討会を行い、子ども理解を深めつつ、一つ一つのかかわりを意味づけていくことができると考えた。

### 3.2 結果と考察

#### 3.2.1 教師のかかわり

観察を始めた4月当初の学級の子どもの様子は、次の通りであった(表1)。

そこで、202X年度の調査から明らかになった教師のかかわりを踏まえて、実践と事例検討会を行い、R教諭のかかわりの変容と子どもの気持ちや様子の変容について考察を行った。

第1回事例検討会(6/19)で用いた、実践開始当初のエピソードでは、R教諭のかかわりは、授業中に子どもたちがザワザワしている中で、授業中の望ましい行動を一方向的に伝えるなど、R教諭の考えや願いが優先されている様子があった。しかし、R教諭が考える良くない行動から望ましい行動へと変えようとしたが、R教諭の言葉は届いておらず、子どもたちはザワザワしたままだった。これは、担任としての願いが

表1 年度当初の子どもの様子

- ・普段から子どもたちの間で、何気なく「きも」「うるせ」などお互いにふざけながら言い合い、全体的に落ち着きがない印象があった。
- ・人(他児)には目が行きがちで、自分ができていなくても人には厳しく注意し合ったり、授業中にクラスメイトが問題を間違えて答えたり、休み時間に少しでも良くないことをしたりすると指摘し合ったりと、まるで監視しているかのような様子も見られた。
- ・理解しがたいクラスメイトの言動があると、近くの友だち同士でヒソヒソと話をする程度で、その言動自体について話題にして考え合うというよりも、不平不満として示すことが多かった。

先行した声かけであり、なかなか落ち着かない周囲の子どもたちに対しての言葉ではなかった。

実践や事例検討会での協議を重ねていくと、R教諭のかかわりは次のように変容していった。

〈エピソード〉 算数の時間、ある文章問題についてみんなで考えていると、A児は、その文章に出てくる「お父さん」に対して「くそデブじゃん」とふざけながら言った。担任もすぐに注意をし、A児も言わないようにしていた。しかし、注意されたことで気持ちが落ち着かないのか、独り言のように「でもデブだし」と納得がいかない様子だった。しばらくして、また担任や友だちに気にしてほしいように、壁に椅子を当て始めた。近くの子どもたちが、「うるさい」「静かにして」と一斉に注意をし始め、筆者もA児と注意がエスカレートしていった周囲の子どもたちの様子が心配になり、その場に行き話をした。すると周囲の子も落ち着き、A児も音を立てないようにでも椅子をゆらしながら気持ちを落ち着かせようとしていた。

しばらくして担任がA児の傍へやってきて、「そうやって切り替えができるようになるうね」と声をかけ、机の上を学習ができる状態になるようにA児と一緒に整えた。担任も、A児が良くない言葉を言わないようにしたり、椅子を壁に当てて音を出さないように頑張っている姿を分かっている、「切り替えができるようになってきた」というA児を認めるニュアンスと「次からもがんばろう」というR教諭の思いや願いを伝えるという両方の意味を含んだ言葉を、A児にかけていた。すると、A児はだんだんと算数の学習に気持ちが向いていき、問題を解き始めていった。

このエピソードのR教諭の言葉には、A児が頑張っていて少しずつ切り替えができるようになった「今」の姿を「それでいい」と認める意味と、「次からも頑張ろうね」という意味が含まれている。直接A児を褒めているわけではないが、「それでいい」と子どもの今の姿を言葉にすることも「認める」かかわりであると言える。このR教諭のかかわりによって、A児は、叱られたことについて「良くないことだとは分かっているけど、納得がいかない」という気持ちに折り合いをつけ、切り替えて再度学習に向かうお

うとする姿勢につながったと考える。

以上のように、事例検討会では10本の「エピソード記述」(エピソード①から⑩)を用いて行った。そこから抽出された教師のかかわりをまとめると、「子どもの気持ちに目を向けて、受け止めるかかわり」と「教師としての考えや思いを子どもに伝えるかかわり」の2つに分けることができた(表2)。

この「教師としての考えや思いを子どもに伝えるかかわり」は、まず子どもの気持ちや思いに目を向けて分かろうとし、受け止めることが前提である。その上で、教師としての考えや思い、願いを子どもに返すことで、子どもにとって意味のある言葉になると考える。

また、子どもの言動を教師目線で判断するのではなく、子どもの側に立って気持ちを考え、寄り添い、子どもの存在そのものを肯定するかかわりは、特に重要であると考えられた。

### 3.2.2 R教諭のかかわりや意識の変容と関連する子どもの変容

4月から11月までの「エピソード記述」を分

表2 教師のかかわりのポイント

エピソード	教師のかかわりのポイント
「子どもの気持ちに目を向け、受け止めるかかわり」	③ 「子どもの立場に立って考える」
	④ 「子どもと同じ気持ちに“なる”」
	⑤ 「子どもの(行動の背景にある)気持ちを分かろうとする」
	⑨
	②
	③ 「子どもの気持ちに教師の気持ちを持ち出して重ね、理解する」
	④
	⑤ 「子どもの「分からない」という気持ちを受け止める」
	⑦ 「子どもの「今」を認める」
	⑧
「子どもに伝えるかかわり」	①
	② 「子どもの言動を意味づけする」
	③ 「子どもの気持ちを想像して言葉にする」
	⑨
	⑤ 「子どもの気持ちが現れるのを待つ」
	⑥ 「間を作る」 「子どもが自ら動くことを信じる」
「教師としての考えや思いを子どもに伝えるかかわり」	③
	⑤ 「子どもの気持ちを受け止め、教師の気持ちを返す」
	⑥ 「子どもの気持ちを一度受け取って、教師の考えを返す」
	⑧
	⑨ 「教師の子どもの姿を反映させた思いを伝える」
	⑩
	④ 「子どもの努力だけではうまくいかないことへの支援・配慮をする」 「具体的に分かりやすく伝える」
	⑦
	① 「子ども同士をつなげる」
	⑧ 「子どもの「先」に期待し、示す」 ⑧ 「子どもに「葛藤」させる」

析すると、R教諭のかかわりは、自分の思いや願いを優先した伝え方から、子どもの「今」を認めつつ、「先」を見据えた言葉を返すかかわりへと変容していった。また、自分の気持ちを子どもの気持ちに寄り添わせ、同じ目線に立って考え、言動など直接見聞できるものだけで判断するのではなく、子どもの内面に目を向けて気持ちを分かろうとする意識へと変容していった。

さらに、子ども一人一人の気持ちや行動、子ども同士の関係にも変化が見られた。先述のとおり、4月当初の学級の子どもたちは、落ち着きがなく、気持ちが荒々しく、互いを監視するように注意や否定を繰り返す様子があった。しかし、実践を重ね、R教諭や筆者のかかわりが変容していくと、子どもの様子も変化していった。例えば、授業中に「分からない」と言える雰囲気が生じたり、「(良くないことを) やってしまいたい自分とやってはいけないと思う自分」という葛藤を抱えた際に、担任の声かけで気持ちに折り合いをつけ、落ち着く姿が見られるようになった。そして、子ども同士でも、良くないことをしてしまったときに許し合い、頑張りを応援し合う関係が見られた。

## 4. 総合考察

### 4.1 教師のかかわり

O教諭、P教諭、Q教諭の3名に共通していたのは、子どもの気持ちを受け止める姿勢と、教師として方向性を示す姿勢をバランスよく保つことであった。この姿勢は、学級という集団に安心感や所属感、信頼感を育む上で大きな役割を果たし、子どもが安心して過ごすことのできる学級を形成するために重要であった。

また、このかかわりは、実践場面でも重要であり、子どもの気持ちや思いを受け止めた上で、教師の願いを子どもに返していくことで、相互理解や他者への配慮が生まれていった。これらは子どもたちが認め合い励まし合う「共に生きる世界」としての学級づくりの基盤として考え

られた。

#### 4.2 子ども一人一人の変容と、子ども同士の関係の変容

教師が「子どもの気持ちに目を向け、受け止めるかかわり」と、「教師としての考えや思いを子どもに伝えるかかわり」の両方を大事にし、状況に応じて、柔軟に行うことで、子どもの心には安心、自信、勇気が育まれる。その結果「ここに居ていい」「失敗しても大丈夫」といった前向きな気持ちが生まれると考えられた。

また実践を通して、子どもの気持ちが落ち着くだけでなく、学級の間関係も変化した。その過程には、まず教師が子どもの気持ちを大事にすることで、子どもは自分自身を大事にできるようになる。そして自分を大事にできるからこそ、他者(クラスメイト)を大事にしようとする気持ちが芽生え、学級全体が柔らかく、寛容な雰囲気へと変容していくのだと考えられた。

#### 5. 本研究のまとめと今後の課題

本研究における「子どもが共に生きる世界」をケアするとは、担任教師が学級の子ども一人一人を大事にすることから始まる。子どもの気持ちに目を向け理解し、受け止めた上で教師としての考えや思い、学級の子どもたちがどのように成長してほしいかという願いを返していくことが、「ケア」である。このような経験の積み重ねによって、子どもは「先生に頼ってみようかな」「ここ(学級)に居てもいいかな」「間違っても大丈夫かな」という気持ちを抱き、自己肯定感や自己効力感を高めていくと考える。

教師から大事にされることで、子どもは自分を大事にし、自分を大事にすることができるからこそ、同じ空間にいる他者(クラスメイト)を大事にできる。このような「ケア」の循環が生まれることで、共によりよく生きようとする豊かな心が育まれていくに違いない。やがて子ども同士の関係は良好になり、互いに認め合い、応援し合い、許し合う関係へと変容していく。

教師が子ども一人一人を大事にすること、そして子どもが自分と他者を大事にすることを支えるかかわりこそが、「子どもが共に生きる世界」をケアすることになるのだと言える。

しかし、教師は子どもの行動面に目が向きがちになり、教師自身の願いや思いも一方的になりやすくなるため、子どもの気持ちに目を向ける姿勢を意識する機会が必要である。授業などの「方法」だけでなく、子どもの視点に立つかかわりを広げることが課題である。また本研究では、大学教員の参加による事例検討会を通して、かかわりを振り返り、意識の変容を促すことができた。しかし、実際の授業場面では他者が介入して観察を行い、振り返る機会は少ない。そこで今後は、日常の中で教師が子どもへのかかわりや姿勢を継続的に振り返るための方法や機会について検討する必要があると考える。

#### 本研究に関わる学会発表等

熊谷美郷・原広治(2025). インクルーシブ教育と通常の学級経営:子どもと「つながる」ことを大切にしたい教師のかかわりと学級経営, 日本特殊教育学会第63回大会発表論文集, 302, 水戸市民会館(ポスター発表).

#### 引用文献

- 島根県教育委員会(2024). 島根県における保育所・幼稚園等及び小学校・中学校の通常の学級並びに高等学校に在籍する特別な支援の必要な幼児児童生徒数調査, <https://www.pref.shimane.lg.jp/education/kyoiku/tokubetsu/sesaku/index.data/R6shitsumonjikoutou.pdf> (令和8年1月28日閲覧).
- 牧野泰美(2025). 島根県聴覚言語障害教育研究会, 3学期定例研修会資料.
- 文部科学省(2022). 通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について, [https://www.mext.go.jp/content/20230524-mext-tokubetu01-000026255\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230524-mext-tokubetu01-000026255_01.pdf) (令和8年1月28日閲覧).
- 無藤隆・澤本知子・寺崎千秋(2002). 21世紀を生き抜く学級担任③: 子どもを見る目を鍛える, ぎょうせい.
- 鯨岡峻(2005). エピソード記述入門: 実践と質的研究のために, 東京大学出版会.
- 鯨岡峻(2011). 子どもは育てられて育つ: 関係発達の世代間循環を考える, 慶應義塾大学出版会.
- 鯨岡峻(2013). なぜエピソード記述なのか: 「接面」の心理学のために, 東京大学出版会.